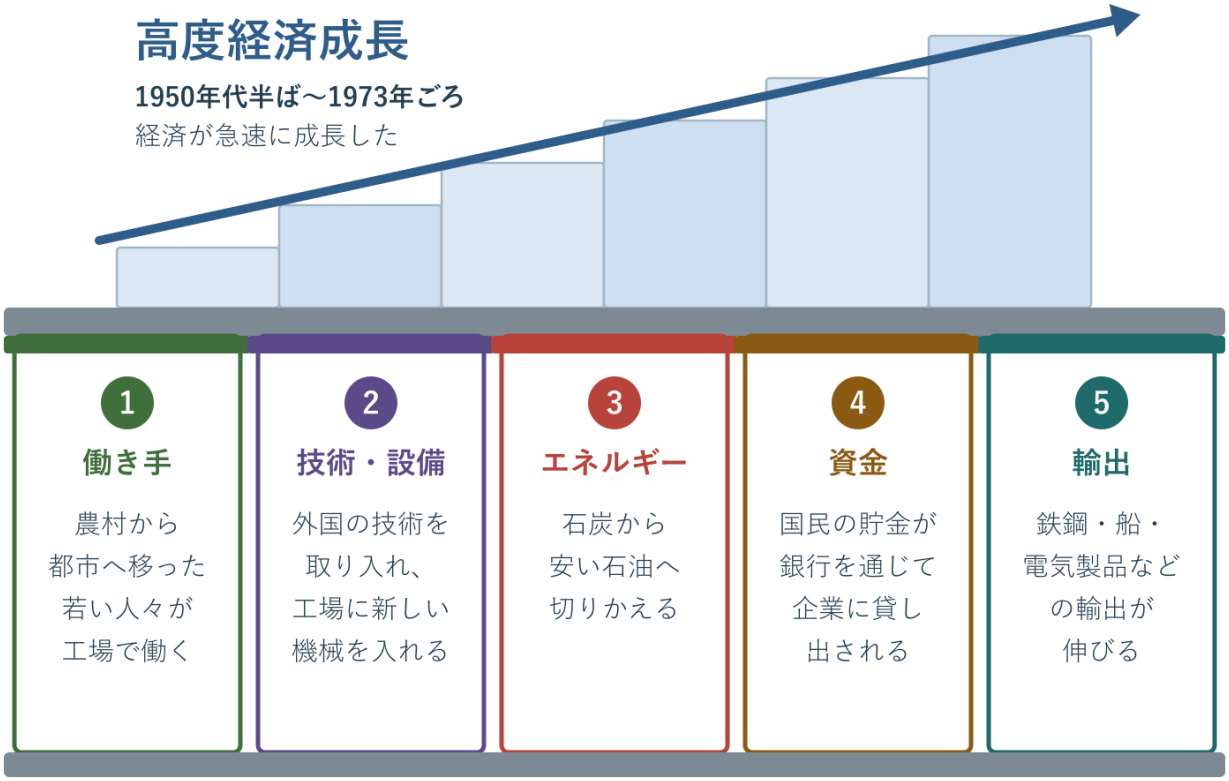
高度経済成長を支えたもの

日本の経済は、なぜ1950年代半ばから急速に成長できたのか

高度経済成長

1950年代半ば〜1973年ごろ
経済が急速に成長した



① 働き手
農村から都市へ移った若い人々が工場で働く

② 技術・設備
外国の技術を取り入れ、工場に新しい機械を入れる

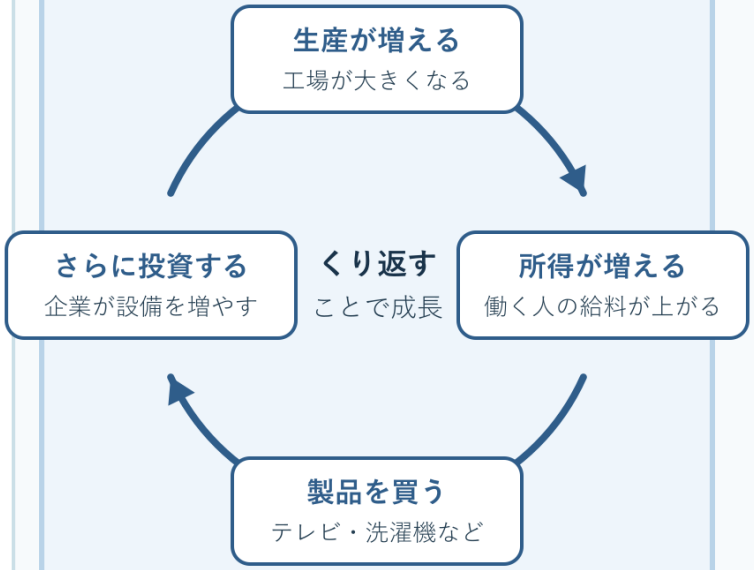
③ エネルギー
石炭から安い石油へ切りかえる

④ 資金
国民の貯金が銀行を通じて企業に貸し出される

⑤ 輸出
鉄鋼・船・電気製品などの輸出が伸びる

5つの条件が組み合わさって、成長を支えた

成長が成長をよぶ（好循環）



①〜⑤の支えの上で、この流れが続いた。

成長の終わり

1973年 石油危機 → 石油の値段が急に上がり、③の支えがゆらぐ → **高度経済成長が終わる**

成長とともに、公害や都市の過密・農村の過疎などの課題も生まれた。

※ 模式図。成長率などの数値は使っていない。5つの支えは主な条件の例で、ほかにも条件がある。